

平成 28 年 2 月 25 日

バレーボールに関わる全ての方々へ

(公益) 日本バレーボール協会
アンチ・ドーピング委員会

これからのアンチ・ドーピングについて

昨年末からニュース番組や新聞等で、ロシア陸上界の組織的なドーピング違反が世界のスポーツ界を揺るがしています。この事件を受けて大手スポーツメーカーでは自社のイメージダウンを避けるために、国際陸上競技連盟の公式協賛社から撤退する方針が報道され、連盟の財政にも大きく打撃を与え、ロシア陸上連盟だけの問題ではなくなっています。また陸上界だけでなく、多くのスポーツ界全体のクリーンなイメージを損なうと共に、スポーツの価値を大きく低下させる行為となってしまいました。

アンチ・ドーピングについては「アンチ・ドーピングとは、スポーツ固有の価値を守り、試合の公平さやアスリートの健康を保護するためにスポーツの世界からドーピングを撲滅することです」と、世界アンチ・ドーピング機構（WADA）では定義づけています。このことは、フェアプレイの精神を基盤としスポーツに参加する世界中の人々が公平で公正なスポーツに参加することを保証するための世界的なルールとなっています。

今までのドーピング検査は薬物違反にならない・出さないために、選手及び選手が所属するチームのトレーナーや医師などが選手個人やチームを守るために対応することが中心でありました。しかし、これからのアンチ・ドーピングについては今までの対応とともに、競技団体自体がそのスポーツがクリーンであることや、スポーツの価値を高めるための方策を講じる必要性が高まってきました。つまり、違反者を取り締まるためのドーピング検査ではなく、バレーボールがクリーンで尚且つ価値のあるスポーツであることを世の中にアピールするためにも、アンチ・ドーピングは競技（試合）ルールの一つとして捉えていくことが重要となっています。

今年にはリオデジャネイロオリンピック、2020年には東京オリンピックが開催されます。オリンピックでメダルを獲得するためにも、また東京オリンピックを成功させるためにも、バレーボールがクリーンで尚且つ価値のあるスポーツであることを世界に発信しなければなりません。これは組織が一丸となって取り組んでいかなければならない課題です。この課題を解決するためには、まずは皆様方にアンチ・ドーピングについてご理解をいただくと共に、国際連盟やアンチ・ドーピング組織（WADA・JADA）とも連携をして、教育・啓発活動に取り組んで参りますので、何卒よろしくご協力の程お願いいたします。

以上